



# 生活クラブ神奈川からみる 可能性と課題

16H0516 伊藤 真吾

# 1. 生活クラブ神奈川組織概要

- ▶ 組合員数：76,638人
- ▶ 共同購入供給高：208億2787万円
- ▶ 世帯当たり利用高：23663円/月
- ▶ 出資金：約93億円
- ▶ エッコロ救済加入率：95.3%
- ▶ COOP共済契約数：7462件(10.3%)
- ▶ 生活クラブ共済(はぐくみ)契約数：20768件(28.8%)

※データは2017年12月末のもので供給高と利用高は2016年度の実績による



## 2. 実習の内容

- 2/2 きらら賞授賞式とその交流会への参加
- 2/21 環境・平和委員会の傍聴見学
- 2/26 戸別配送トラックへの添乗
- 2/27 デポーでの業務体験
- 2/28 横浜みなみ生活クラブ 栄コモンズ大会の傍聴
- 3/1 生活クラブ福祉事業体験
- 3/2 生活クラブの生産者の農園の見学

# 2/2 キララ賞授賞式と交流会



# 2/21 環境・平和委員会の傍聴



# 2/26 個別配送トラック添乗



# 2/28 栄コモンズ大会の傍聴



# 2/27 デポーでの業務体験



# 3/1 生活クラブ福祉事業体験



# 3/2 生活クラブ生産者の農園見学



### 3. 実習から感じた可能性

- 組合員という仲間意識(コミュニティの確立)
- 組合員同士で刺激を与えあうことで個人が地域を変える可能性
- キララ賞などの活動を通じた人を繋ぐ活動による広域的な影響力
- 消費者の生産者の間に“見えない部分”の解消

## 4. 学生視点での課題

- ▶ 組合員の間での意識のズレ  
(組合員ではなく客であるという認識の違い)
- ▶ 組合員同士の関係の希薄化
- ▶ W.Coの担い手不足(労働者を守る後ろ盾がない、そもそも若い世代が少ない)
- ▶ 新規組合員獲得に焦点を当てた対策
- ▶ 生産者と消費者の間でのすれ違い
- ▶ コモンズ内での利益の還元

## 5. まとめ

- ▶ 人とのつながりを作っていくことが今必要とされている持続可能な生活を営んでいくうえで最も重要
- ▶ できたつながりは広くなっていく分、綻びも出てくるためそれをどう繋ぎなおしていくか



ご静聴ありがとうございました

